Organization for the Promotion of Responsible Tuna Fisheries

OPRT ニュースレター

No.126
2024年6月

〒102－0083　東京都千代田区麹町3－4－3（シエルブルー麹町4階）
電話：03－6256－9138　FAX：03－6256－9139
URL:https://www.oprt.or.jp　E-mail:maguro@oprt.or.jp

－ みんなの力で おいしいマグロを いつまでも －

発行・一般社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構

目次

1・2面…巻頭インタビュー
3面…第28回IOTC年次会合開催
4面…OPRT総会・新専務に伊佐氏就任、漁師の仕事！
船と漁業を知る授業

女将が伝えるマグロのおいしさ

海鮮料理「魚春とと屋」　女将　永井　寛子さん

横浜市鶴見区鶴見においしいマグロを食べられる店があります。老舗の魚屋「魚春」（ウオハル）が直営する海鮮料理「魚春とと屋」で、女将を務めるのは「魚春」の次女の永井寛子さんです。「顔が見える女将さん」として親しまれ、子供からお年寄りまで飽きずに食べ続けられるマグロ料理を提供しています。幼いころから家業を手伝い、その中で培った小売りの経験やコミュニケーション能力を活かし、様々な食べ方を提案しマグロの魅力を伝えています。お店やマグロに対する思いについて話を聞きました。

（インタビュー・小菅綾香）

――生い立ちについて教えてください

寛子　私は横浜市の鶴見の魚屋「魚春」の次女として生まれました。魚春は大正9年（1920年）、高祖父が創業し、そこから100年以上にわたり現在まで続いています。祖父が戦争で早くに他界したため、父（永井良和社長）は若くして魚屋の4代目を継ぐことになりました。母は静岡県熱海市の魚屋の娘で、魚春に嫁いでからは惣菜の仕出しなどを受け持ち、父と二人三脚で店を切り盛りしてきました。

人気メニュー「中落ちのユッケ」

私も小さいころから天丼やうな丼の販売や配達に付いて行っていました。忙しい家だったため、父と母の手伝いをしているときが、親子が会話できる大切な時間だったように思います。

――マグロとの関りについて教えてください

寛子　父が毎日、マグロを切っていたので、学校から家に帰ってきて「お腹が空いた」と言えば、おやつ代わりに食べさせてもらっていました。父も「今日のマグロはうまいから食べてみろ」と薦めてくれたことにより、マグロのおいしさを体が自然と覚えていったんだと思います。もちろん食卓には毎日、マグロの刺身がありました。そのため「おかず」という認識はなく、「漬物」的な存在でしたね。あとは母が惣菜用で作った「マグロのから揚げ」。これも売れ残ると食卓に並び、よく食べていました。母の思い出の味ですね。

――魚春とと屋はどんなお店ですか

寛子　魚屋「魚春」が運営する「魚春とと屋」は、京急鶴見駅前にある海鮮料理の居酒屋です。マグロを使ったメニューが人気で、地元の人はもちろん、水産業に携わる方、出張で訪れた方など幅広いお客様が足を運んでくれています。私は「魚春とと屋」で女将を務めて今年で26年目になりました。

魚屋として子供の頃から直接お客様のニーズを聞いてきた経験と、そこで培われたコミュニケーション能力を活かし、マグロの魅力を伝えています。

赤身が好きな人にトロを出しても響きません。好みを知ったうえで、

（2面につづく）

（１面からつづく）
新しい食べ方を提案すると、お客様の世界観も広がるように感じます。

――現在は「魚春とと屋」の女将をされていますが、家業を継ごうと思ったきっかけはなんですか

寛子　大学時代、長期休みになるとタイやヨーロッパ、ニューヨークなどバックパッカーとして一人旅をしていました。当時、日本にまだカフェが普及していなかったころ、フランスではカフェが人々の居場所のような存在になっていることを魅力に感じました。

そこで「将来は自分の店を持ちたい」と思うようになりました。フランスのカフェのように自分にとっても、お客さんにとっても心地よく過ごせる居場所となるような店ですね。

だけどまずは自分の好きなことをする前に、先に親孝行をしようと思ったんです。当時、姉はアメリカで生活していましたし、私まで家を出てしまったら、魚春や残された家族はどうなるんだろうという気持ちでした。

最初は2、3年のつもりで、家業を手伝い始めたら、両親の苦労も分かり、いざとなったら、なかなか抜けられなくなっちゃって。自問自答しながらも今は「魚春とと屋」の女将という自分らしくいられる居場所を見つけられました。

――学生時代の夢を叶えられたんですね

寛子　女将という立場は、人と人とのつながりの上に成り立っています。お客様や従業員など周りの皆さまに支えられ、「女将」という居場所を作っていただいているように思います。

それにはお互いの信頼関係が不可欠です。長年培われてきた魚屋として技術や仕入れ力を活かし、確かなおいしさを届けることが、信頼関係を築いていると感じています。

――女将としてマグロの魅力をどのように伝えていますか

顔が見える女将として親しまれている

寛子　マグロを使ったメニューには、刺身盛り合わせをはじめ、中落ちのユッケの他にもカルパッチョ、サラダ、ネギトロなどがあります。マグロと言えば、「刺身」と思われがちですが、様々な食べ方を提案することで、マグロの新たな魅力を伝えています。これらにより、食べる頻度の向上や新規顧客の獲得にもつながっています。

――今後について教えてください

寛子　料理のバリエーションを増やすことで、子供からお年寄りまで幅広い世代にマグロのおいしさを伝えていきたいです。様々な選択肢がある中でも、目移りせずにマグロを食べ続けてほしいですね。

また昨今、海洋環境の変化により常に同じ品質のマグロが手に入らなくなっています。同じ魚種やサイズに片寄らずに、クロマグロ、メバチ、ミナミマグロなどそれぞれの良さを引き出し、資源を無駄なく使っていきたいです。

お店情報　魚春とと屋

住所：神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1－31－2 シークレイン1F
最寄り駅：京急鶴見駅、ＪＲ鶴見駅
電話：045－521－0390
営業時間：ランチ11:30～14:00、ディナー17:00～23:00（土曜日のみ22:00まで）
定休日：日曜日

魚屋は技術を極めた包丁師
業界に若者の力、不可欠

――寛子さんが家業を継いだことについてどう思われますか

良和　ごく自然な流れだったように思います。すごい働き者で、よく頑張ってくれています。

仕入れで市場に連れていくと注目の的でした。最近は自分のペースが崩れるので一人で仕入れに行っていますが、「今日は一緒じゃないのか」「娘さんまた連れてきてくれよ」とよく言われます。

――お店での最近のマグロのおすすめは

良和　今の一押しは中トロの切り落としです。手巻き寿司にするもよし、海鮮丼もよし。食べ盛りのお子さんがいる家庭でも、しっかりボリュームがあって食べ応えも抜群です。

中トロの良さは、適度に脂が乗りつつも、マグロ本来の味をしっかり感じられるところです。毎日買いに来る人でも「うまい！」と感じてほしいですよね。飽きずに食べ続けられるよう魚の魅力を伝えることを大切にしています。

――昨今の魚屋業界についてどう感じていますか

良和　魚屋は捌く技術を極めた言わば「包丁師」でなくてはならないと思います。生き残っていくためには、ただ安く売るのではなく、目利き力や魚を捌く技、売り方など、トータルでの付加価値を上げることが重要です。

それと当店でも人手不足が深刻です。これまでは若い衆が魚を解体し、私は刺身を作っていましたが、人手が足りず久々に10キロを超える魚を捌くと、包丁が重く感じました。魚屋業界を維持・存続させるには、若い人の力が不可欠です。

社長の父・良和さん㊧と寛子さん

第28回ＩＯＴＣ年次会合開催

第28回インド洋まぐろ委員会（IOTC）年次会合が5月13日から17日までバンコクで、ハイブリッド方式により開催された。会合の主な結果は以下の通り。

１．キハダの保存管理措置

2021年に採択されたキハダ保存管理措置に関する決議21－01に対して6つのメンバーが異議申し立てを行っていたことから、資源回復措置の合意が期待されていたが、昨年の年次会合では合意できなかった。キハダの資源状態は悪く、現状が続けば更に悪化すると評価されていることから、今年の年次会合では、資源回復措置の合意に大きな期待が集まっていた。

会合には、パキスタン、南アフリカ及びイランから、暫定回復計画に関する共同決議案が提出された。これは、加盟国29カ国ごとに漁獲上限を設け、総漁獲量を33万5，156㌧に制限することを目的としたものであった。これに対してメンバーからは様々な意見が表明されたが、⑴近年の漁獲実績に比べて削減幅が大きすぎる、⑵開発途上メンバー、特に小島嶼開発途上国メンバーに対する配慮が足りない、⑶漁獲量削減に関する基本原則を確立すると言いながら14メンバーが例外扱いされており多すぎる、⑷今年実施される次回の資源評価を待って管理措置を検討すべき、といった理由により多くのメンバーが反対した。パキスタン等の提案者は、現在の状況を踏まえれば、次回の資源評価では更なる状況の悪化が予想され、その場合、更に厳しい管理措置の導入が必要となるので決定を先送りするべきではないとした。

会合中に非公式の議論が数回行われたが、いかなる合意にも達することができなかったため、パキスタンは来年2月に特別会合を開催することを提案したが、他のメンバーはこれを支持しなかった。その結果、この問題を来年4月の第29回年次会合（レユニオン（インド洋南西部のフランス海外領土））で議論すること、年次会合で何も合意できない場合には、来年6月か7月に特別会合の開催を検討すべきことで合意した。

２．漂流集魚装置（DFAD）の管理措置

昨年2月に特別会合を開催して、DFADに関する決議23／02を採択したが、昨年の年次会合後、異議を申し立てたメンバーの数が11に達し、IOTC協定に従って発効しなかったため、今次会合ではDFADの管理措置の採択が期待されていた。

今回の会合には4つの異なる提案が提出された。会合ではこれらの提案を統合するための非公式の起草グループが開催され、最終日には統合修正決議案が本会合に提出された。殆どのメンバーはこの決議案を支持したが、オマーンは、自国は協議には関与しておらず、DFAD登録制度の実施には予算の手当がなされていない等重大な欠点がある等と述べて採択に反対した。他の加盟国は決議案の採択を強く支持し、議長もオマーンに対して後で異議申し立てを行ってもよいのでコンセンサスをブロックしないでほしいとしたにもかかわらず、オマーンが引き続き反対したことから、パキスタンは投票を提案し、採決の結果、賛成22票で決議案が採択された。

新たに採択された決議には次の内容が含まれている。

⑴各まき網漁船が一度に使用することができるDFADの数は、以下に制限される（現行300）。

2026年1月1日以降：250

2028年1月1日以降：225

また各まき網漁船が年間に購入できるDFADの数（現行500）は2026年1月1日から400となる。

⑵上記⑴に関わらず、2023年に1又は2隻のまき網漁船を有するメンバーについては、各まき網漁船が一度に使用できるDFADの数は以下に制限される。

2026年1月1日以降：280

2028年1月1日以降：255

また、各まき網漁船が年間に購入できるDFADの数は、2026年1月1日からは480、2028年1月1日からは460となる。

⑶上記⑴及び⑵に関わらず、小島嶼沿岸途上国メンバーについては、各まき網漁船が一度に使用できるDFADの数は以下に制限される。

2026年1月1日以降：270

2028年1月1日以降：240

また、各まき網漁船が年間に購入できるDFADの数は、2026年1月1日からは440、2028年1月1日からは420となる。

⑷まき網漁業に従事する支援船の数は以下に制限される。

現在：まき網漁船10隻以上に対して支援船3隻

2026年1月1日以降：まき網漁船12隻以上に対し支援船3隻

2029年1月1日以降：まき網漁船15隻以上に対し支援船3隻

なお、DFADを使用したまき網漁業の禁漁期間については合意されなかった。また、これまでの例から考えるとオマーンはこの決議に異議申し立てを行う可能性が高い。

３．サメ

サメの保存管理に関して2つの提案が提出され、⑴船上でヒレを魚体から切り離すことの禁止及び、⑵ワイヤートレースとシャークライン（延縄フロートから直接伸びる枝縄）の両方の禁止が議論された。

殆どのメンバーはこれらを支持したが、日本は両方の措置に反対し、EUはワイヤートレースの禁止に反対した。会合中に非公式な議論が行われ、最終日に改訂案が提出されたが、その内容がWCPFCやIATTCで採択されている措置を超えていたため、日本は合意をブロックした。また、英国とオーストラリアは、改訂案に含まれる措置が絶滅危惧のサメ種の保護には弱すぎるとしてこれに反対した。その結果、会合では何の合意も得られなかった。

４．管理手続き

カツオとカジキのそれぞれについて新たな管理手続き（MP）が採択された。これによりカツオとメカジキの総漁獲可能量（TAC）は、指定されたデータを入力すれば、想定されていなかった事態が生じない限り自動的に計算されることとなる。いくつかのメンバーは、IOTCが複数の熱帯マグロ種（メバチとカツオ）とメカジキについてMPを採用した最初のマグロRFMOであると強調した。しかし一部のメンバーは、各メンバーの漁獲上限設定といった適切な漁獲管理措置が導入されなければ、総漁獲量がMPで計算されるTACを超える可能性があると指摘した（実際、カツオについては数年前にTACが計算されたが、適切な漁獲管理措置が無かったため、メンバーの総漁獲量はTACを超えてしまったという実例がある。）。

5. 漁獲割当基準

2011年以降11回に亘って漁獲割当基準作業部会を開催し、パラメーターを入力すれば自動的に各国の割当が決まる数式の導入を議論してきたが合意は得られていない。南アフリ

（４面につづく）

（3面からつづく）
カは、本件に関する一般的な議論を促進する目的で、割当基準に関する決議案を提出した。参加者は一般的な意見を交換し、10月に開催される作業部会でより徹底的な議論が行われるべきであることに同意した。また、作業部会の議長は前回会合後に辞任したことから、新たな議長の選出が行われ、オーストラリア国立海洋資源・安全保障センターのクエンティン・ハニック氏が選出された。

OPRT総会

新専務に伊佐氏就任

OPRTは6月3日、2024年度通常総会を実会合とオンライン参加のハイブリッド方式で開催した。冒頭、魚住会長は、ウクライナや中東情勢の悪化による燃油価格の高騰、日本市場におけるマグロ類過剰在庫、更には大幅な円安の進行により漁業経営改善が困難な状況の中、生産者、流通業者及び消費者のいずれにとっても重要なマグロの持続的利用が実現されるような環境となることを祈っていると述べた。事業計画については、今年度も各マグロRFMOの関連会合をモニターしつつ、特にまき網のFAD操業による小型メバチの多獲問題、漁獲証明制度、混獲問題、漁業労働問題等に注意を払い、電子モニタリングについてはワークショップを開催して会員間の情報共有を進めること、マグロキャンペーンは開始後20年経過したことから、発展拡大するため今年度は会員の全国消費者団体連絡会とも協力して天然刺身マグロの素晴らしさを新たにアピールしていくことなどを述べた。

また、来賓として出席した水産庁国際課の鈴木かつお・まぐろ室長は、「OPRTが持つ豊富な知識・経験や、まぐろの主要漁業国・地域の団体が会員となっているユニークな特性を生かし、引き続き、国際的なまぐろ類の資源管理に大きな役割を果たされることを期待している。水産庁としても、OPRTと連携し、まぐろ類の輸入管理等、様々な課題に共に取り組んで参りたい」と述べた。

議事では、事務局から2023年度の事業報告として、IUU漁業対策として輸入データ分析、RFMOのポジティブ・リストのモニター、日本へ搬入されるマグロのDNA検査を実施したこと、マグロRFMOの関連会合にオブザーバー参加し結果を関係会員あてに提供したこと、OPRT混獲問題方針を採択してホームページに掲載し、その後のRFMOにおける修正を反映したこと、冷凍天然マグロの良さをアピールするため、10月10日まぐろの日を中心とするキャンペーンを実施したこと、豊洲市場におけるミナミマグロタグ調査を行ったこと、新たにケニアまぐろ漁業協会が加盟したこと、OPRTホームページを全面的に刷新したこと、決算については当初388万円赤字の見込みが28万円の黒字となったことなどが報告された。

また、太田愼吾専務が退任し、新専務に伊佐広己氏が就任した。

太田前専務は退任にあたって「3年間という短い間であったが、その間事務所の移転、OPRTホームページの刷新を行うとともに、常に会員のために何が出来るかを考えながら仕事を行ってきた。新専務においては引き続きOPRTの更なる発展に尽力して欲しい」と述べた。また、伊佐新専務は、「水産庁時代において、若手中堅時代にまぐろ漁業に、キャリアの後半は貿易、金融、養殖と幅広い分野で水産行政に携わってきた。まぐろ漁業を取り巻く厳しい状況を乗り越えるべく、前任に引き続き、会員の皆様のご意見をよく賜り、尽力してまいりたい」と抱負を述べた。

対面とオンラインを併用して開催

漁師の仕事！船と漁業を知る授業

遠洋漁船見学、企業ガイダンスへ

全国漁業就業者確保育成センターは、遠洋漁業の魅力をアピールするため、「漁師の仕事！船と漁業を知る授業」を6月1日、静岡県焼津市の焼津漁港と同市総合福祉会館「ウェルシップやいづ」で初開催した。

遠洋マグロ漁船の前で記念撮影

午前の遠洋漁船見学には、焼津水産高校を主体に北海道、山形、富山、沖縄の水産系高校計5校、県内外の普通高校の生徒、及び中学生、合計80人余りが参加。保護者や引率の先生も加えると約120人になった。

生徒らは焼津まぐろ漁業㈱の遠洋マグロはえ縄船・第88福久丸、共和水産㈱の海外まき網船・第78光洋丸に乗船し、乗組員から説明を受けた。

続いて午後に漁業会社の話を聞く「漁業を知る授業」が開かれ、水産高校生と中学生ら計50余人の生徒が参加した。

水高生はグループに分かれて、遠洋カツオマグロ漁業などを営む12企業が構えた各ブースでガイダンスに参加し、各社は漁業の概要、漁船の操業形態、働き方や船内生活の様子、給与をはじめ待遇などを説明し、幹部乗組員の必要性を説明、海技士資格の取得を呼び掛けた。

中学生は、沿岸、沖合、遠洋漁業の概要を説明する「漁師の仕事！はじめてセミナー」を受講した。また焼津水高の教諭が授業や実習など学校生活を紹介したほか、漁船で働く同校卒業生が感想を話した。遠洋漁船仮想現実（VR）も体験。このあと、中学生らも各ブースを訪問して遠洋漁業の知識・理解を深め、水産高校への進学やその先の進路である漁師を身近に感じていた。

編集後記　6月3日付けで専務に就任した伊佐です。よろしくお願い致します。2000年12月のOPRT設立総会に出席したことを鮮明に覚えています。マグロ漁業を巡る情勢は大きく変化しましたが、今後どのような情報が皆様に有益であるかを模索して参ります。また、一般の方に対してOPRTの知名度を向上させることにも取り組んで行きたいと思います。（伊佐）